

3. 水循環



4. 水資源開発の経緯

- 水の利用は、上水道のように各家庭や事業所に給水する施設整備と合わせ、安定的に取水、給水するため水資源の確保が行われてきています。
- 淀川水系における水資源の歴史は古く、明治23年に完成した**京都琵琶湖第一疏水事業**をはじめとして、多くの水資源開発事業が実施されてきている。これにより、水系内はもとより、流域外の兵庫県域、奈良県および大阪南部地域に対して水供給がなされ、社会経済の発展に寄与しています。
- 水資源の整備は、洪水調節とともに水道事業者からの要望に基づく利水等多くの目的をもった共同事業として、効率的に実施しています。

4. 水資源開発の経緯

年次	内容
明治23年	京都琵琶湖第一疏水事業
明治45年	京都琵琶湖疏水事業
大正期	宇治川筋において宇治川発電所をはじめ水力発電所完成
明治28年	大阪市上水道事業
昭和2年	尼崎市、守口市、大阪府営水道等の淀川を水源とした水道事業
昭和18年～28年	淀川河水統制第1期事業
昭和25年	国土総合開発法
昭和32年	特定多目的ダム法
昭和36年	水資源開発促進法
昭和37年	「水資源開発促進法」に基づく水資源開発水系に指定され、「淀川水系における水資源開発基本計画」の策定
昭和47年	水資源開発基本計画の全部変更
昭和57年	水資源開発基本計画の全部変更
平成4年	水資源開発基本計画の全部変更

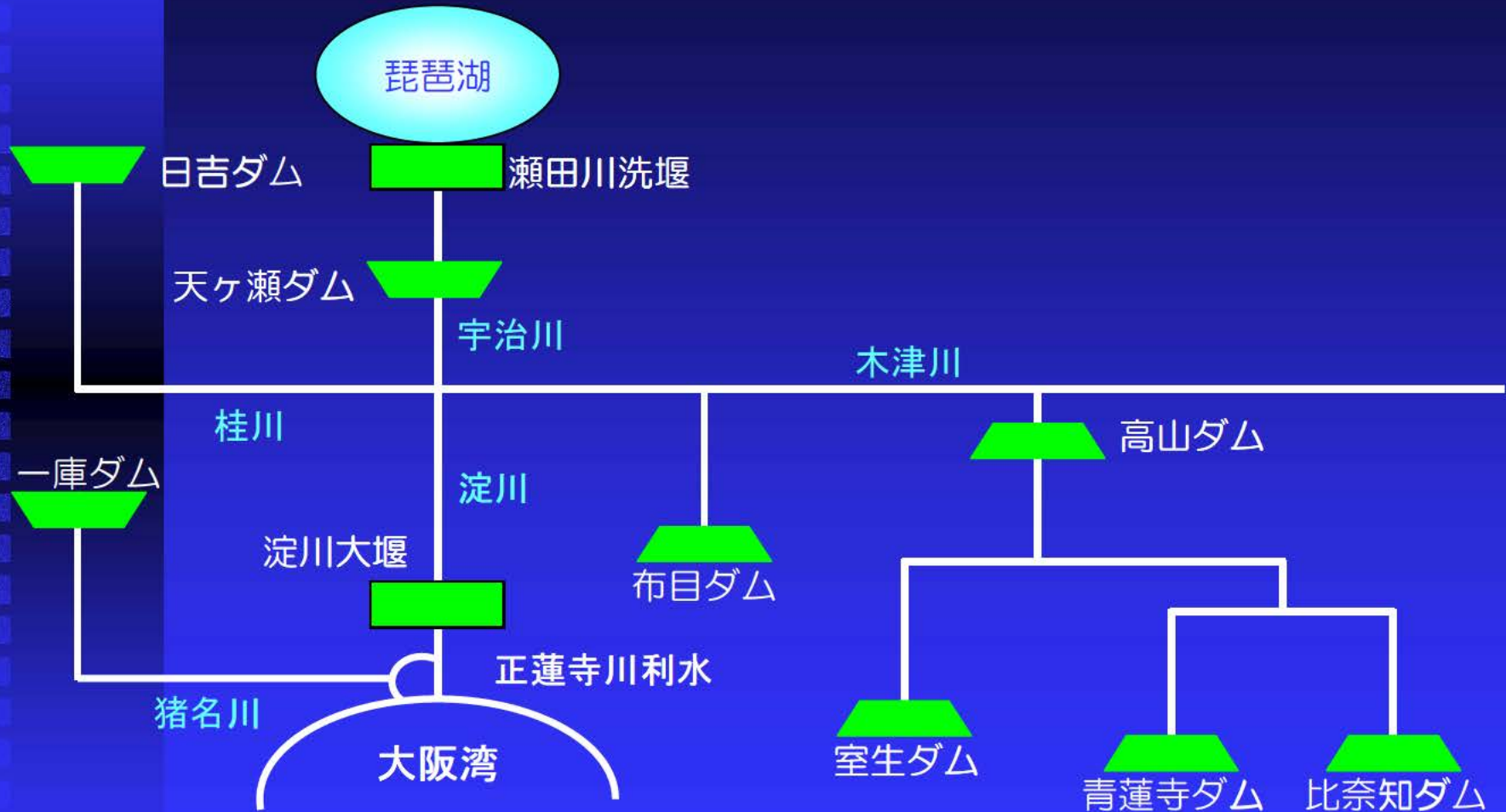
5. 水資源開発施設

直轄・公団施設として、すでに完成している施設として、**淀川大堰、正蓮寺川利水、天ヶ瀬ダム、高山ダム、青蓮寺ダム、室生ダム、一庫ダム、琵琶湖開発、布目ダム、日吉ダム、比奈知ダム**の11施設があります。

また、**大戸川ダム、丹生ダム、川上ダム、天ヶ瀬ダム再開発、猪名川総合開発**の5施設を整備中です。

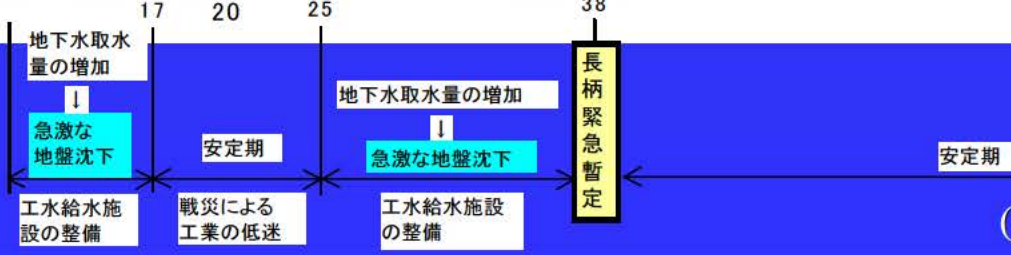
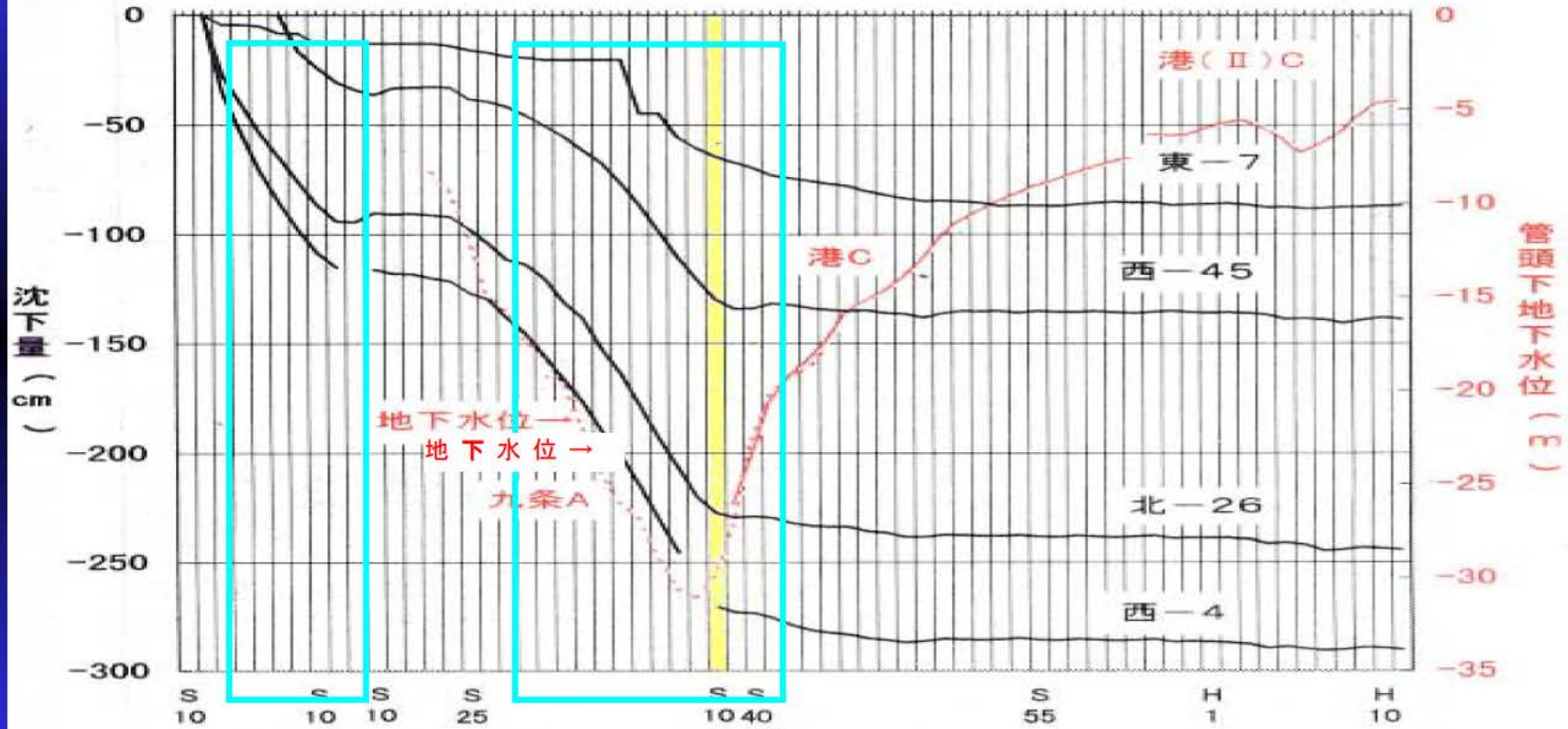
5. 水資源開発施設

5.1 完成施設



5. 水資源開発施設

大阪市内における累積沈下量及び地下水位の経年変化図



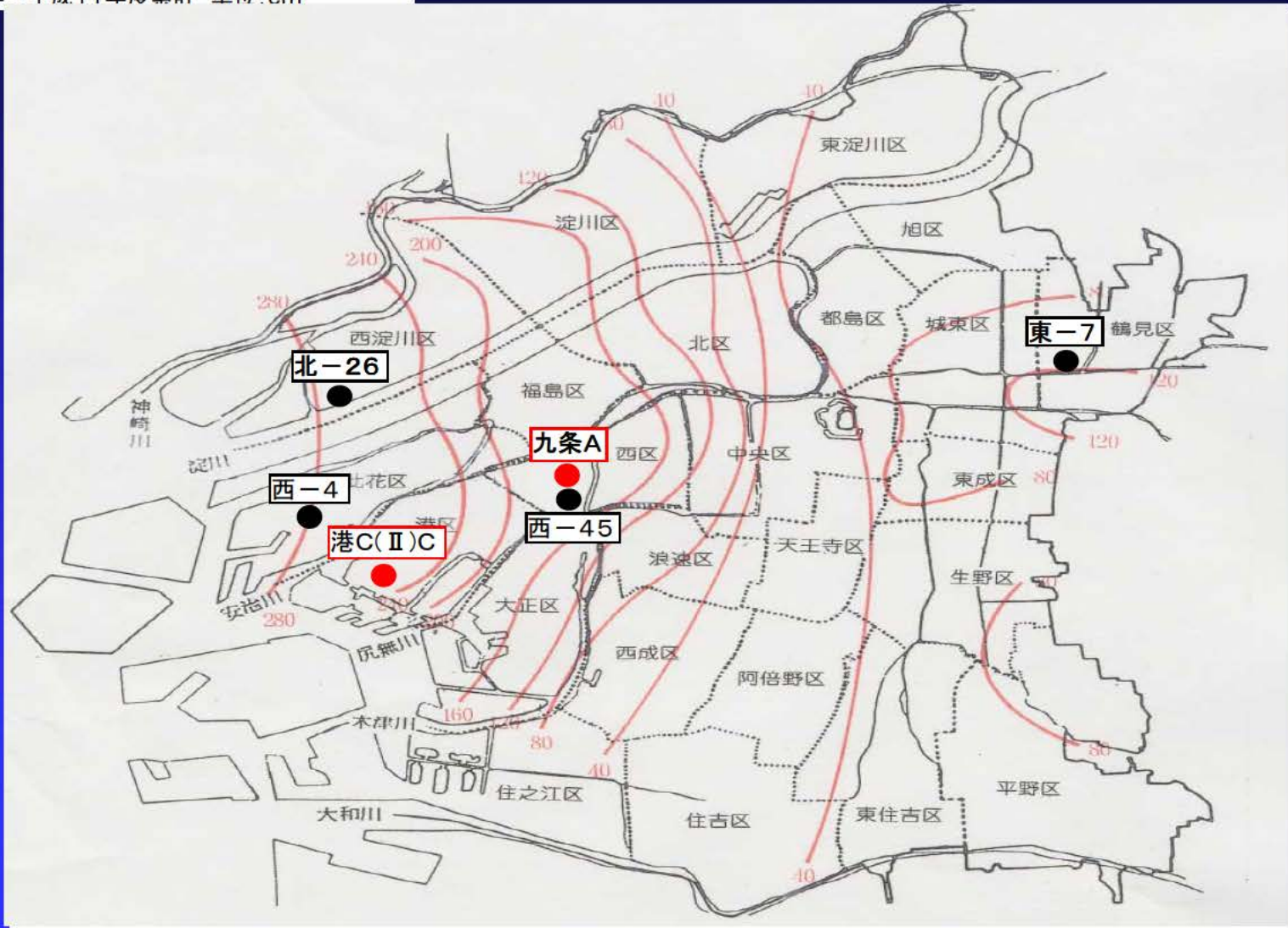
(出典: 大阪市環境白書)

5. 水資源開発施設

大阪市内の累積沈下等量線推定図

昭和10年～平成11年度累計 単位:cm

(出典:大阪市環境白書)



5. 水資源開発施設

5.1 完成施設

① 淀川大堰(長柄可動堰改築事業)



淀川大堰(1964年完成, 1983年改築)

開発量 10.000m³/s

【水道用水】

- 阪神水道^{※1}
- 尼崎市
- 大阪府
- 大阪市
- 守口市
- 枚方市

4.150m³/s

【工業用水】

- 大阪府
- 大阪市
- 大阪臨海^{※2}
- 伊丹市
- 尼崎市
- 西宮市
- 神戸市

5.850m³/s

※1…阪神水道企業団

※2…大阪臨海工業用水道企業団

5. 水資源開発施設

5. 1 完成施設 長柄可動堰改築事業(現淀川大堰)

■ 事業目的

- 緊急かつ暫定的に、阪神地区の水道用水・工業用水を確保

■ 事業手法

- 維持用水 $70\text{m}^3/\text{s}$ のうち $10\text{m}^3/\text{s}$ を利水転用するため、残る $60\text{m}^3/\text{s}$ の内 $20\text{m}^3/\text{s}$ を貯留し、退潮時 $100\text{m}^3/\text{s}$ のフラッシュ操作により従前と同等の機能

■ 事業内容

- 在来の堰を可動化するとともに、フラッシュ操作に必要な容量を確保